

月刊

Vol.45

GPP

令和元年7月号



株式会社
グロースパートナーズ

この季節になると・・・

確か去年の梅雨は関東地方では早くにあけてしまったと記憶しているが、今年は梅雨らしい日々が続いている。九州地方では梅雨前線が停滞し、大規模な水害が発生しているようだ。

我々が駆け出しの頃に広島県安佐南区で大規模な土砂崩れと遭遇し、その後、鬼怒川の氾濫、熊本地震に起因したため池・ダムが決壊、ため池が集中する四国地方にて集中豪雨によるため池決壊、そして昨年の中四国地方の大規模水害等々、ここ数年の災害に伴う水害は枚挙にいとまがない。

水害が発生すると我々がセルドロンに目が注がれ、多くの問い合わせを頂くようになった。不幸な災害が原因であるから、喜ばしい事態ではないのだが、少なくともお声が掛かるようになってきたのは、事業主としてはありがたい話である。一方、悩ましいのは実際に災害の最中であつたり、混迷を極める復旧・復興のタイミングで詳細を詰めようにも、詰めることが出来ないのが現実。パッと話が上がって、萎んで消えていく連続。

ただ、ここにきて“**災害用備蓄**”のキーワードが少しずつ出てくるようになった。多くのサポーターがいる愛媛県では、少しずつ具体的になってきており、一つの実績が出来るとそこから波及していく可能性は高く、大いに期待している。水害からの復旧資材としては、間違いなく最適な資材であると自負するところである。

また、その他、都内の現場、特殊な浚渫工事、から「紙由来の製品を探している」と、実にピンポイントな引き合いが増えて来ている。背景がイマイチ掴めていないので、若干不思議な感は否めないが、大げさに言えば「時代が求めはじめてきたか・・・」とも思っている。

典型的なのは残コン対策。いままで存在すら認めて貰えなかった残コンが、ここにきて脚光を浴びつつあり、その処理剤としてセルドロンも土俵にあがることになるだろう。とある方からは「そうになったら大手が類似品を作る」と厳しいご意見を頂いたし、きっとそうなるであろう。でも、いままで存在すら認められなかった残コンに光が当たり、そしてそこに参加するプレイヤーが増えることは、実はとても良いことではないかと考えている。特許だって、極論、マネされてナンボ。表舞台に立てるとは、光栄なことだと思っている。

藤井 成厚

セルドロンの用途について

■豪雨対策について

豪雨による自然災害が多いこの時期には、避難場所の確認や災害時の連絡方法の確認など、家族で話しあう機会が多いと思います。高層ビルなどにも、水、パン、などの非常用食料や、生活用品などを完備しているところが増えていると思います。弊社には、今回、行政からセルドロンの備蓄に関して問合せがありました。土砂の撤去には、セルドロンが有効です。水分の多く含んだ土砂は液体のように流動性が高く、撤去が大変です。バケツにいれても処分する場所がないし、簡易的なバキューム機で吸引してもすぐに詰まってしまいます。そのため、セルドロンで水分を吸水し、個体にしたものを土のう袋にいれてすぐに持ち運ぶ(撤去)ことが可能です。



土嚢で仮設プールを作り、スリラー状の土砂を入れセルドロンで攪拌しダンプで搬出

セルドロンで改善できる復旧作業

- ①作業効率・土砂にセルドロンを混ぜるだけの単純作業。
- ②時間短縮・セルドロンを混ぜるだけなので、作業時間は数分程度。
- ③土砂置場・水分を多く含んだ土砂も堆積可能な土砂に。
- ④環境問題・pHが8程度で植物に優しい。



セルドロンで混ぜたところは、おからみたいにおろポロ

セルドロンが混ざっていないところは、スリラー状でドロドロ



攪拌するだけでダンプトラックに積載可能な土砂に。

■残コン用途について

大阪府エリアの現場から残コン用途の問い合わせが増えております。

東京では、ポンプ車に残った残コンを生コン工場が無料で持ち帰ることが多いようですが、地域によって有料であったり、持ち帰らないところがあるようです。下記のように3つのパターンがあるのかと思います。

- ①生コン工場が無料持ち帰り
- ②生コン工場が有料持ち帰り
- ③現場で処分

セルドロンのお問合せが多いのは、②と③の時です。

その他にも、先送りモルタルの処理の問い合わせもあります。

また、生コン工場が無料持ち帰りの地域でも、今後の現場で処理するように言われてきているところもあるようです。

現場で効率的に残コンを処分するには、セルドロンをお試しください。一度採用いただくと、継続的に活用いただく現場が増えてきております。



ハンドミキサー利用した改質(先行モルタル)

その他ご不明な点がございましたらお気軽にご連絡ください。